

# 平成28年産米の需給見通しと販売状況について

## 1. 作柄・品質概況について

【28年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）】

	全国				新潟県			
	作況指数 A	10a 当たり 予想収量 (kg/10a) B	主食用作付 見込面積 (ha) C	予想収穫量 <主食用> (t) B×C	作況指数 D	10a 当たり 予想収量 (kg/10a) E	主食用作付 見込面積 (ha) F	予想収穫量 <主食用> (t) E×F
28年産米①	103	544	138万1千	749万8千	108	581	10万1500	58万9700
27年産米②	101	531	140万6千	744万2千	101	547	10万2400	53万9600
① - ②	-	-	▲2万5千	5万6千	-	54	▲900	5万100

### (1) 主食用米の作付動向

- 全国的には、主食用米から水田活用米穀等への作付転換の拡大により、28年産の主食用米作付見込面積は、生産数量目標の面積換算値を2万5千ha下回る138万1千haとなり、2年連続で超過作付が解消されました。

### (2) 作 柄

- 本県については、田植期から出穂期以降までおおむね天候に恵まれ、「全もみ数」は「やや多い」、「登熟」は「やや良」と見込まれています。この結果、県平均の作況指数は、「108（良）」と見込まれています。
- 作柄表示地帯別では、「もみ数」の多少や「登熟」の良否の違いなどから、若干の地域差が生じています。

地帯名	岩船	下越北	下越南	中越	魚沼	上越	佐渡
作況指数	106	108	109	108	109	106	104

### (3) 品 質

- 10月31日現在の全農県本部集荷分のうるち米1等比率は85%（前年同期83%）と概ね平年並みとなっています。
- 「コシヒカリ」は、粒張り・粒揃いは平年よりやや良く、品質は前年・平年よりも「やや良い」となっています。
- 「こしいぶき」は、白未熟粒の混入は前年・平年より少なく、全体的な品質は、「前年並み」で、平年よりも「やや良い」となっています。

## 2. 需給見通しについて

- 28年産米の生産量が750万トンと見込まれることから、29年10月末持越在庫は17万トン程度（内もち米4万トン）と見込まれます。
- また、米価上昇によりSBS輸入米が前年産実績（1万トン）から8万トン増加すると仮定した場合、29年10月末の持越在庫は25万トンとすることが見込まれます。
- 今後の需要量や29年産の作付動向に引き続き注視していく必要があります。

### 【10月15日現在の28年産米予想収穫量にもとづく需給見通し（全農推定）】

単位：万トン

		作況103	備考
27年10月末持越在庫	A	39	全農持越在庫（うるち米36万トン、もち米3万トン）
28RY	27年産生産量	B	744 国の公表値（確定値）
	供給量計	C=A+B	783
	主食用等需要量	D	760 当年の供給量783万トンと在庫見通し23万トンの差による試算値
28年10月末持越在庫	E=C-D	23	全農持越在庫見込（うるち米19万トン、4万トン）
29RY	28年産生産量	F	750 国の公表値（10月15日現在の作柄概況による）
	供給量計	G=E+F	773
	主食用等需要量	H	756 国の基本指針をふまえ、前年から4万トン減少と仮定
		H'	748 SBS輸入米への切替えにより、国産米需要が更に8万トン減少すると仮定
29年10月末持越在庫	I=G-H	17	全農持越在庫見込（うるち米13万トン、もち米4万トン）
	I'=G-H'	25	全農持越在庫見込（うるち米21万トン、もち米4万トン）

## 3. 28年産米の販売状況について

### （1）販売状況（10月31日現在）

- コシヒカリについては、一部量販店等の新米切替が遅れたことや、安価な市中玉が優先されていることから、前年を下回っています。
- こしいぶきについては、販売計画の減少を受けて、卸売業者が販売調整をおこなっており、出荷は概ね順調に推移しています。

### （2）販売促進対策

- 販売計画を卸売業者と共有しながら販売を進め、契約の早期積上げをはかります。
- 首都圏におけるライスガールズとNGT48を核としたPRイベントなどの広告宣伝の強化とあわせて、店頭における試食販売や生産者・JAによる消費地での販促応援などを随時実施します。

（米穀部 総合対策課）